

【技術の名称】 ATOMiK II 合成壁 ー山留め壁の形鋼材と後打ち鉄筋コンクリート壁の合成からなる地下外壁ー (改定)	性能証明番号：GBRC 性能証明 第01-06号 改 性能証明発効日：2011年8月9日 【取得者】 株式会社熊谷組、株式会社新井組、 株式会社ピーエス三菱
--	--

【技術の概要】

山留め壁の構造要素である形鋼材 (H形鋼) と後打ち鉄筋コンクリート壁を形鋼材のフランジ面に設けたシヤコネクタによって一体化し、地下外壁として利用する技術である。

本構法の特徴は、適用する山留め壁の種類として、ソイルセメント壁の他に形鋼材を使用する親杭横矢板壁にも適用できるとしていること、山留め壁と鉄筋コンクリート壁との合成度については不完全合成の場合も対象としていること、及びシヤコネクタに用いるスタッドと壁配筋との相互の位置関係を制約していない点である。

本技術は、平成13年7月3日に(財)日本建築総合試験所建築技術性能証明 第01-06号として性能証明されたものであり、今回の改定では、合成壁の隅角部 (合成壁と基礎スラブあるいは基礎梁が交差する部分) の設計法を追加するとともに、使用材料の範囲の変更および申請者が5社より3社 (内1社は社名変更) に変更となっている。また名称はATOMiK合成壁からATOMiK II 合成壁となっている。

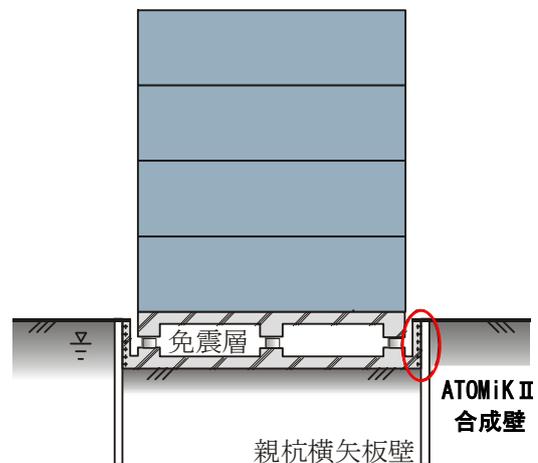
【技術開発の趣旨】

本技術は、従来、仮設としてのみ用いられている山留め壁の構造要素である形鋼材を、後打ちの鉄筋コンクリート壁と一体化した合成構造として地下外壁に利用することにより、地下外壁の設計の合理化を図るとともに、形鋼材の有効活用及び地下階空間の有効利用を図ろうとするものである。

【性能証明の内容】

申込者が提案する「ATOMiK II 合成壁設計施工指針」に基づいて設計・施工される合成地下壁は、その隅角部を含

んで合成構造としての一体性を保ち、土水圧などの側圧荷重を受ける地下外壁として、本設計施工指針に提示されている設計用耐力式の適用が可能な性能を有していると判断できる。



片持ち壁形式の適用例



構造実験写真

【本技術の問合せ先】

株式会社熊谷組 担当者：小川敦 E-mail：atogawa@ku.kumagaigumi.co.jp

〒162-8557 東京都新宿区津久戸町 2-1 TEL：03-3235-8721 FAX：03-3235-9215

株式会社新井組 担当者：蕪鉄盛史 E-mail：sotetsu-atsushi@araigumi.co.jp

〒662-8502 兵庫県西宮市池田町 12-20 TEL：0798-26-8498 FAX：0798-26-3115

株式会社ピーエス三菱 担当者：古澤顯彦 E-mail：furusawa-a@psmic.co.jp

〒104-8215 東京都中央区晴海 2-5-24 TEL：03-6385-8032 FAX：03-3536-6939